



炭 竈 ふく代 議員

不登校対策として学校生活 適応指導教室の開設を

問

次の不登校対策について
聞く。

(1) 現在の小中学校の不登校の実態。

(2) (1)に対する指導内容。

(3) 不登校の子どもの学校復帰を支援する「学校生活適応指導教室」の設置は、子どもの居場所を確保する重要な指針である。

蟹江町に「あいりす」があり、市から通う子どももいると聞いた。市も早期に開設すべきと思うがどうか。
(4) 同施設の概要。

**早い時期に設置を
したいと考える**

答 教育部次長

(1) 小中学校合わせて10名ほどいる。

答 教育課長

(2) 各学校にスクールカウンセラーを配置し、相談できると対応している。

答 教育部次長

(3) 市から3名が同施設に通っており、海部地区では津島市と同町が設置している。市としても早い時期に設置をしたいと考えている。

答 教育課長

(4) 同施設は児童・生徒の集団適応力を養い、学校への復帰を図ることが目的。月々金曜日の通常の学校と同様な時間帯で、自分の意思で勉強する体制を整えて指導する施設で、授業料は無料である。

**外国籍の子どもに就学
指導を行っているか**

問

6月議会で、外国籍の就学年齢該当者67名中22名の市内就学者に対し、45名は四日市市等のブラジル人学校に通っているのではないかとこの答弁があった。
その後の調べと今後の対応を聞く。

**通知にポルトガル語を
併記し就学指導を図る**

答 教育部次長

ブラジル人学校に問い合わせたが人数等も教えてもらえず、把握に苦慮している。

今後の対策として、保護者への就学や健康診断の通知にポルトガル語を併記する等、配慮して就学指導を図り、他市町の対応を参考に進めていきたい。

**放課後児童クラブの
開館時間の延長を**

問

仕事と子育て両立への支援策として、次の放課後児童クラブ対策について聞く。
(1) 現行、午後6時までの開館時間の延長。
(2) 現行、小学校3年生までの対象年齢の拡大。

**人員等を考えながら
十分検討していきたい**

答 民生部長

(1) 申し込みの人数も当然、延長すれば増加することが想定されるため、施設の収容能力、人員等も検討しなければならぬと思っております。そういったことも考えながら十分検討していきたい。

答 市長

(2) 現状に対して改善が必要ならば、それは考えていきたい。

先ほどの(1)の児童クラブの問題についても、今後の大きな課題であろうと思うので理解してほしい。